

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400041		
法人名	株式会社 平山建設		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	〒037-0301 青森県北津軽郡中泊町大字今泉字神山147-1		
自己評価作成日	平成29年10月20日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を念頭に年次目標を職員間で掲げ実践している。目標を達成する為、具体的取り組みを職員間で話し合い、実践し、評価している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事に積極的に参加している。又、地域の商店や理美容室の出張があり、日常的に交流を図り、馴染みの関係を築けている。地域住民より、野菜や魚の差入れを頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括主催の会議等に積極的に参加し、事業所での実践内容を踏まえ、地域の課題にグループホームとして協力出来ることを考え、地域に還元する取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、入居者、家族、地域住民、地域包括、行政の職員が会議に参加し、行事報告は映像を見て頂き状況が分かるよう工夫している。又、都度の問題を提示し、助言を頂きながら、サービスの質の向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは、運営推進会議で良い関係性を築いており、課題が発生した場合には、都度相談し方向性の指導を頂いている。また、広報誌を送付しており、事業所の取り組みを伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを基本とし外部研修の参加、内部研修でも定期的に取り上げており、朝礼や勉強会でも身体拘束はしない方針であることを確認している。入居時、命の危険性がある場合を考慮して同意書を頂いている。玄関は、施錠はしていないが、スイッチで開くようになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、外部研修に参加しており、その結果を勉強会や定例会で報告し、職員に周知徹底できている。当ホームの方針に基づいて入居者の尊厳を第一に考え、言葉掛けに配慮し、日々のケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方が1名おり、職員は制度を理解している。必要に応じて、後見人と連絡をとり調整を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解除の際には、入居者の家族の不安や疑問に懇切丁寧に対応している。契約に変更があった際は、文書で通達し、来訪時に再度説明を行い納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には家族と情報交換をし、信頼関係を築いている。又、受診前後の電話報告は必須としている。意見箱の設置、外部評価の際の家族アンケートも推進会議で公表し、施設内勉強会でも取り上げ、サービスの向上に努めている。又、入居者の状態に応じて今後の方向性や家族の思いについて話し合いを行い個別に支援している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や夕礼、毎月の定例会で意見交換を行っており、職員全員から意見を聞き、提案のあったものは密に話し合いが行われ運営に反映されている。定例会では、代表者とお茶を飲みながら行ったり、朝礼は座って行うことで会話も弾み話しやすい環境となっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員と積極的に会話する機会を持ち、個々の状況を把握し、勤務形態や時間を考え対応している。働きながら子育てができるよう職員の要望にも配慮している。又、年1回の社員旅行が有り、やりがいに繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の力量や経験に応じ研修に参加出来ている。毎月の施設内研修では、その時に必要な議題を取り上げたり、外部研修の報告を行ったり等、意見交換を行うことで職員のスキルアップを図っている。又、新人職員に対しては新任研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議や地域ケア推進会議に参加し、意見交換を行うことで、情報の収集とサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時、本人や家族から基本情報や生活情報を詳しく聞き、不安なことや要望にも対応している。入居者の今までの暮らしや思いを大切に、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階から、家族の思いや希望、ニーズを把握するよう努めている。家族の要望を親身に聞くことで、いつでも気軽に相談できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と十分に話し合い、何を必要としているのかを見極めている。必要に応じて、各関係機関との連携を図り、ニーズに添ったサービス提供を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場でその人らしさを引き出しながら得意分野を見つけ、時には教わりながら共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の様子や気付きを丁寧に伝え、時には家族と同行受診し、入居者の暮らしを家族と一緒に考え、支えている。又、行事への参加を呼びかけ、入居者と一緒に過ごし楽しめる場面を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の把握に努め、交流や墓参り支援を行っている。馴染みのある地域の祭りや行事に出掛けたりデイサービスへ友人に会いに行ったり等、友人、知人との交流の機会を多く持ち、関係が継続されるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その人らしさや個性を活かし、役割や共同作業等でコミュニケーションを図り、利用者と一緒にお茶の時間を過ごす等の工夫をし、入居者同士の関係が円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院やサービス利用終了になった際にも家族の相談に乗り、関係を断ち切らないようにしている。又、入院先に面会する等、信頼関係を保てるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で思いの把握に努めており、何気ない一言や表情から分かった事を職員間で情報を共有している。意思疎通が困難な方に対しては、暮らしの中での気付きや家族からの情報や思いを大切に意向に添っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族や本人、在宅時の担当ケアマネより情報収集し、入居者一人ひとりが自分らしく暮らせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活習慣や生活リズム、その人の有する力を日々の生活の中で探り、把握できるよう働きかけを行い、スタッフ間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のモニタリングは担当者が主体となって取り計らい、本人の意向や家族の思いを大事にしながら見直しを行っている。家族、職員、関係者同意のもと計画を作成し支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受診状況、身体状況、行動の変化等気付いたことを受診ノート、生活記録や業務日誌に記載している。又、朝のミーティングでの報告や、夕方のミーティングでその日あった出来事を報告し、申し送りノートも活用しながら、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズや状況に応じて柔軟に対応し、入居者、家族の満足が得られるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	緊急連絡網に地域の協力委員の名前を記載しており、火災、災害の時は協力を得られ、安心した暮らしが出来るよう支援している。又、徘徊ネットワークで駐在や包括と連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時は、かかりつけ医を受診しているが、状況に応じて紹介状をもらい、他医療機関での治療も支援している。受診前後の報告を必須としている。特変に関しては、家族の協力も得られている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態変化を密に報告し、相談、助言、指導を受けている。看護師とは24時間、連絡が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も定期的に職員が伺い、早期退院に向け、担当看護師、家族と情報交換している。院内の地域連携室とも連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の指針を定めており、契約時には十分な説明をし、その期に及んだ際は医療機関指導のもと、家族、担当者、看護師、代表者、居宅等で十分な話し合いをする体制をとっている。緊急入院時等の同意書を頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、全職員が周知している。又、普通救命講習Ⅱを全員受講している。グループホーム内にはAEDを設置しており、定期的に使用方法を確認している。又、夜間の緊急時は、宿直者や隣接している事業所より応援が来る体制を構築している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練時は、毎回消防士の方の指導を頂き、又、地域の消防団の方には、連絡網を活用しての参加が得られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に基づいて、その人らしさをお守りしながら、過去に敬意を、未来に希望をの観念で支援している。特に言葉掛けはBST生活向上委員会の議題に取り上げ、事業所全体で入居者に敬意を払い、人格を尊重した声掛けに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを工夫したり、表情や反応を読み取り、入居者の希望を把握するように努めている。又、買い物等、自己決定できる場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念に基づき、本人の気持ちを尊重し、個々のペースに合わせ、柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理容店、美容院の出張が有り、本人の希望に沿ってカットしている。パーマや白髪染めの要望にも対応している。洋服選びは、本人の意向やその人らしさを大切にしている。又、外出時は化粧をし個性を尊重した支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮な物を取り入れた食事は好評で楽しみの一つのようなのである。苦手な物や食べられない物を把握し、食事が楽しめるよう柔軟に対応している。個々の入居者の力量で役割分担し、職員と共に準備や片付けを行っている。メニューは検食表や写真を残し、嗜好調査している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を生活記録に記録し把握している。体調や嚥下状態等に応じ、嗜好品や食べやすい物や介助方法、食器を工夫して食事が進むよう配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、義歯洗浄、うがいをやっている。就寝前は義歯洗浄剤に浸け清潔を保持している。口腔内の手入れは個々の力量や状態に合わせた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンは記録にわかりやすく記載しており、トイレで排泄できるよう支援している。失禁時の対応は入居者の羞恥心やプライバシーに配慮している。又、尿意のない利用者には時間での誘導を行っており、トイレで排泄できるよう支援している。紙パンツやパットの利用も常に検討しており、最低限の使用に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には起床時に乳製品を提供したり、水分補給を徹底し、腹部マッサージや適度な運動を行い、身体を動かすよう意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	源泉掛け流しの温泉で24時間、いつでも入浴可能である。一番風呂が好きな方を優先したり、ゆっくり浸かりたい人には順番を後にする等、対応している。又、まだ若い女性利用者には男性ではなく女性スタッフが対応する等、羞恥心に配慮しながら個々の意向を反映させている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活のリズムをつかみ、昼夜逆転しないように努めている。眠れないときは会話をしたり、飲み物を提供する等、安眠できる支援をしている。又、足浴、タクティールケアをする等、安心して気持ち良く眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の病歴を把握し、服薬支援前に目的、副作用を理解している。説明書は生活記録に挟んで確認できるようにしている。薬の変更があった時はマーカーを引き、管理している。誤薬がないよう、2人体制でのチェックを行ったり、薬を用意する入れ物の工夫もし、服薬管理に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の立場に立って、出来る事は行って頂いている。洗濯物干しや食器拭き等、役割分担をすることで生きがいのある生活が送れるよう常に気を配り支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は外を散歩したりドライブに出掛けたり等なるべく外出するようにしている。入居者の希望で墓参りや買い物、又、馴染みの地域でのイベントに参加したり等、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり管理している。小額は本人、家族の希望で所持している方がいる。買い物は本人の力量に合わせ自己決定できるようにしている。地域の出張販売で通い帳を利用し、購入をしている人もいる。家族には毎月小遣いの確認後、捺印を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった際は、いつでも電話が掛けられるよう支援している。子機を使用し、居室での会話ができるよう配慮している。又、手紙や年賀状を出す等、関係性が途切れないうように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井はスギ、腰板はヒバ材を使用し、建物全体に光触媒を行っている。暖房設備に関しても充実している。食卓の場と活動(機能訓練の場)とメリハリのつくよう工夫している。又、テレビの前にはソファを置き、利用者が団らんでできるようつろぎの場にも工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内が広々とゆったりとして開放感があり、ソファには衝立を設置し、落ち着いて思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入口には手作りの表札を掲示している。家族の写真、使い慣れた物、タンス、生活用品等持参して頂き、安心して過ごせるよう配慮している。又、亡くなった家族の写真を置き職員と一緒に供え物や花を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっている。居室から見える風景で建物を誤認する方には、自然が多く見える景色の部屋にする等、居室移動等行い、柔軟に対応し、安心して過ごせるよう配慮している。		